

ふくしま よしひと
福島 嘉人

この冬は雪が多いの…？

●自治労・書記長

まだ冬には早い昨年11月下旬、関東地方平野部に雪が降り、東京でも積雪があった。東京23区内での11月の降雪は54年ぶり、積雪を記録したのは観測史上初めてのことだという。

最近の天気予報の精度は高く、数日前から降雪が予想されていたのでそれなりの覚悟はしていたところであるが、鉄道などの交通機関は大混乱とまではならなかったものの、それでも雪による運休や遅延が発生し、通勤に苦労をされた方も多かったようである。

道路事情は、降雪時よりも翌日の路面凍結によるスリップ事故が多かったとテレビのニュースで放送されていた。また、降雪予報が出てから、車のタイヤを冬タイヤに交換しようとする人々がタイヤ屋さんやカー用品店に殺到して長蛇の列ができたというニュースで流れていた。

冬タイヤの性能の向上は日進月歩で、今や素晴らしい性能を発揮してくれるが、過信が禁物なのは言うまでもなく、雪道や凍結した道路ではやはり慎重な運転と細心の注意を払う必要があることは言うまでも無い。

そんなことがありながら、いよいよ冬本番に突入したが今シーズンは寒い冬になるのだろうか…？雪は多いのだろうか…？

昨今は日本本来の四季が感じられなくなり、春と秋を感じる期間が短くなっているような気がしてならない。暑い夏がいつまでも続き、やっと涼しくなってきたと思えば一気に雪が

降るほどまで季節が進んでしまったり、寒さが和らぎそろそろ春が近づいてきたと思えば、一気に夏日になってしまったり…。草木も混乱して、冬に桜の花が咲いたり、先日の降雪の時には季節外れにひまわりが咲いていて、ひまわりの花に雪がかぶっていたのをご覧になっただろう。季節感の無さもさることながら、異常ともいえる気象が続き、今や異常が通常になってしまっていると言っても過言ではないような気がする。

去年は夏頃からラニーニャ現象が発生していて、その影響かどうかは定かでは無いが、昨夏は暑かったうえに東北や北海道に、直接、台風が上陸するなど、気象現象としては今まではあまり無かった事が続けざまに発生した。ラニーニャ現象が発生すると、夏は猛暑に、冬は厳冬になると言われているらしい。

雪の多いところではかなりの積雪が予想されるとの事であり、関東平野部、都心でも積雪に注意が必要のようだが、11月の降雪でそれが現実味を帯びて感じられたものである。

昨年の冬は雪が少なく、スキー場はオープンが遅らせたり、早めにクローズせざるを得なかったなど、冬の産業は打撃を受けたところも多かったようである。関東地域でいうと関東北部や上信越地域の積雪は生活環境に大きな影響があることは記憶に新しい。

積雪量が大きく影響するのが、昨年夏前に水不足と言われた水源地における渇水である。春先からの降水量が少なかったこともあるの



だろうが、大きな原因は冬の積雪が例年より少なかった事により雪解け水が予想をはるかに下回り、水源の貯水量が少なくなってしまったことであると聞いた。

そのために不便を強いられた者にとっては、雪が少なかったことを恨めしく思った方も多かっただろう。

一方で雪が多くて困ることもある。道路の除雪については費用も掛かり、積雪が多いと国も地方自治体もその費用の捻出に苦勞をし、雪が少なければ費用も掛からず助かるのも事実である。

また家庭でも、雪かき、雪下ろしは必要であり、手間も費用も掛かってしまう。特に屋根からの雪下ろしは危険が伴う作業であり、毎年のように雪下ろしによる事故が発生している。さらには核家族化が進む中では、高齢者世帯の雪対策も考えていかななくてはならず、ボランティアを募るなど地域や行政も対応に苦慮していると聞く。

また、除雪した雪の捨て場にも困ってしまうようだ。道路では、わきに積まれている事もあるが、道幅が狭くなる事もあり、高速道路や幹線道路、街中はダンプカーで雪捨て場に運んだり融雪処理をしていると聞いたが、捨て場の確保にも苦慮しているらしい。

一般家庭や会社・企業などは、自分で処理しなくてはならず、時として近隣トラブルにも発展しかねないと言う。

このように、無くてはならない場合もある

が、多すぎて困ってしまう雪の利用法は何か無いものだろうか。

ビルの地下などに貯留して夏場の冷房に活用する方法等があるようだが、いかんせんそれ相応の保管場所が必要であり、どこでも誰でもできるわけではない。みんなが簡単に活用できる方法があれば雪害と言われなくても済むようになるので、この分野での研究・開発が進むことを期待するものである。

積雪は慣れている地域でも大変であろうが、都市部においてはそれこそ大混乱を引き起こしてしまう。車のスリップ事故や歩行者の転倒事故、電車の運休や遅延、バスは交通渋滞により遅延して交通網は大混乱…。こんな光景は、私が暮らしている関東都市部ではほんの数センチの積雪で起こってしまう。自らの責任で何か対応を…と考えても、せいぜい滑らないように気を付けて歩くぐらいと家の周りの雪かきぐらいである。

昨年この場所で、自然災害に備える必要性を書かせていただいたが、現実には熊本を中心とした大きな地震が起きて改めて自然災害の脅威を目の当たりにし、備えることの重要性を再認識したところである。

今年もこのようなことを書いていながら大きな災害が起こらないことを祈るとともに、少なくとも自分でできる対策はしっかりと整えておくことを肝に銘ずる次第である。この冬が、日本らしい四季を感ずる冬になり、今年一年が平穏な年になることを祈って…。